

てくたく 深沢・駒沢・桜新町Ⅱ

今回は先月ご紹介した「てくたくぶっく」深沢・駒沢・桜新町を巡る「駒沢公園コース」の続きをご紹介。歩くことならでの楽しみがあるのはもちろん、珍しいものに出会えました。

給水塔 弦巻 2-41 (パノラマ撮影のため橋が湾曲しています)



新玉川線桜新町駅から歩いて 10 分ほどのところにネズミ色の丸い建物が 2 つ並んで建っています。この建物は大正 13 年に旧渋谷町に水道を引くために作られた給水塔です。多摩川の水を現在の鎌田 2 丁目付近で取水し、渋谷町浄水場（現砧下浄水場）を経てここに貯め、自然落差によって渋谷町に給水していました。10 月 1 日など年に数回装飾灯に灯りがともります。

庚申様 駒沢 3-2



路傍にたたずむ青面金剛と三猿が刻まれた庚申塔。村人が長寿招福を願い江戸時代につくったと言われてています。

品川用水路跡 駒沢 3-22



品川用水は江戸時代、玉川上水から分水して、品川区戸越にあった細川家下屋敷のお庭に水を引くための水路でしたが、後に農業用水に利用され、品川領の水田を潤していました。品川信用組合の前通り（大山道）は用水路のあったところです。



善養院 新町 2-4



善養院は曹洞宗のお寺で、旧大山道の南、久富稻荷神社の東側にあります。元和 2 年（1616）に大場豊前守義隆が開基、開山は豪徳寺第 2 世門解盧関大和尚です。明治 5 年の火災で焼失しましたが、明治 17 年本堂建立を機に再興を果たしました。現在は世田谷二十番観世音霊場になっています。本尊は釈迦如来像。山門をくぐると 30 余りのお地藏様が祀られています。



* てくたく刀サッチ #34 「両親閣東京別院」瀬田 4-13 *

両親閣東京別院は、宗門史跡安房小湊両親閣妙蓮寺（日蓮上人ご両親の御墓所）の東京別院として大正 12 年（1923）妙牙院日昇上人によって建立、大孝根本の布教道場で、敬親玉川教会とも言います。なお、境内にお蝸蝸の供養碑と蝸蝸桶があります。



境内に土葬に使った棺桶がありました

久富稲荷神社 新町 2-17



久富稲荷神社は、古くから新町村の氏神様として人々に敬われてきました。表通り（旧大山道）に面した鳥居から139間（約250m）もの長い参道の奥に二の鳥居があり本社にたどり着きます。御祭神は五穀豊穰を司る倉稲魂命です。もともと稲荷神社の「稲荷」は「稲荷（いねなり）」がイナリと略されたとき倉稲魂命の神像が稲を荷っていたことから「稲荷」の字を充てたと言われています。

江戸道 駒沢 4-33



深沢から大山道を通って、江戸に向かうことから「江戸道」と呼ばれていました。この道は深沢を南北に貫いています。

駒沢ゴルフ場跡 駒沢 1-24



現在の駒沢オリンピック公園は、大正時代は正金銀行総裁の井上準之助さんが作った18ホールあるゴルフ場でした。当時は特別の階級の人達が黒い馬車に乗ってゴルフをしに来たということです。子供たちはキャディの手伝いをして1日30銭稼いでいました。



お地蔵様・秋山の森 新町 1-3

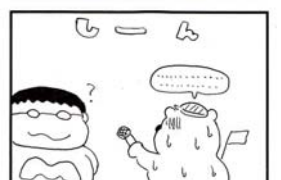


昔、深沢は片山、西、中村、下の四つに分かれていました。片山は呑川の北側と駒沢公園通りの西側にあたります。今の野球場の北側は秋山の森といって昼なお暗い杉林でした。その森のはずれの新町境に狭い四つ辻があり、そこにお地蔵様がありました。そばに大きな松の木があって子供たちが登って小便をかけるなどいたずらをしてお頭を壊してしまいました。ここで片山の和助というおじいさんは柵を作ってお守りしましたが、急に病気になってしまいました。ある日夢にお地蔵さまがあらわれ「わたしは子供が大好きなので柵を取るように」と、言われました。柵を取り外すとおじいさんは元気になり、子供たちはまた周りで元気に遊ぶようになりました。以来、この地蔵を小便地蔵というようになりました。



**ご自宅まで配達します！ 2016年
アサッチのオススメ本！ 3月**

**それ行け！！
アサッチ**



**サザエさんうちあけ話 長谷川 町子著
定価：1296円（税込）**

「当時の大きさのまま読みたい」との読者からの要望が高かった、発売当初の大型版を約40年ぶりに復刻！高校生で田河水泡へ弟子入りし、西日本新聞社勤務時代、そして『サザエさん』誕生…を著者自らが漫画で綴る。

「当時の大きさを读みたい」と読者の声多数！
お待たせしました。約40年ぶりの復刊です！
長谷川町子自らが漫画で描く「私の自叙伝」